

“絶景”を背景にデスクワークができる！？ 仕事をしながら心も体もリフレッシュできる 北海道でしか味わえない“北海道型ワーケーション”を紹介！

- Topic1. 非日常を味わえる、おすすめワーケーションスポットを一挙紹介！
- Topic2. 北海道に移住したくなる！？道内で活躍する「地域おこし協力隊員」を紹介！
- Topic3. 北海道だからこそできる、道内全体で取り組むワーケーションとは？



日本の総面積のおよそ20%以上を占める広大な地、北海道。手つかずの大自然、豊富なグルメや温泉など、どれをとっても心惹かれるものばかり。そんな北海道で今、力を入れているのが“ワーケーション”。今回、絶景を楽しむことができるワーケーションスポットの紹介をはじめ、北海道を知り尽くした「地域おこし協力隊員」や北海道内全体で取り組むワーケーションについて紹介します。

【Topic1. 非日常を味わえる、おすすめワーケーションスポットを一挙紹介！】

Topic1では絶景を楽しめるだけでなく、「キャンプをしながら」「羊の群れを見ながら」「休憩の合間にスキー」など、多種多様なワーケーションをご紹介します。仕事をしながら心も体もリフレッシュできる、北海道庁おすすめのワーケーションを知ることができます。

【Topic2. 北海道に移住したくなる！？道内で活躍する「地域おこし協力隊員」を紹介！】

Topic2では、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組である「地域おこし協力隊」に参加する方々を紹介。北海道に移住し、人生がガラリと変わった話や北海道でしかできないことなど北海道に移住したくなる内容に。

【Topic3. 北海道だからこそできる、道内全体で取り組むワーケーションとは？】

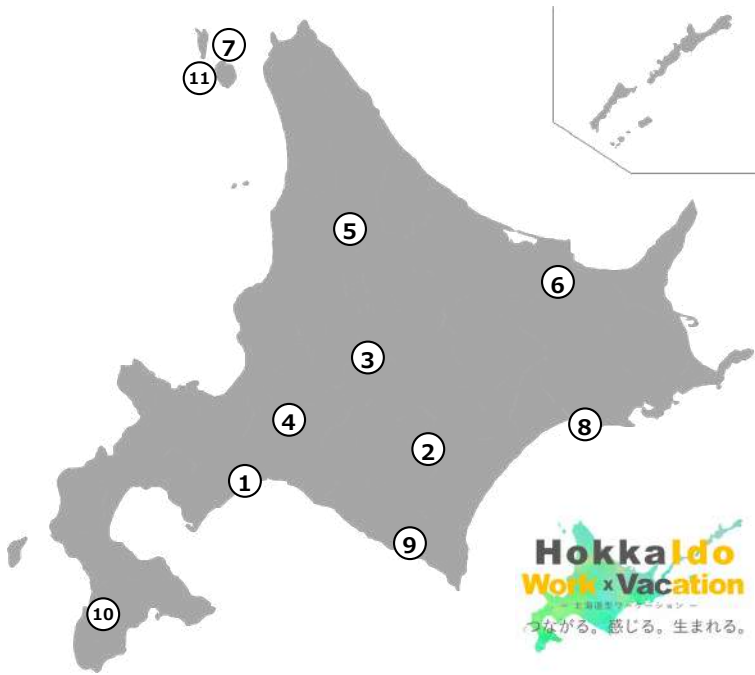
Topic3では、今力を入れてきている北海道庁のワーケーションについて紹介。企業や個人それぞれに合った、多種多様なワーケーションプランを紹介。また、大手企業ともタッグを組んで“北海道型ワーケーション”の強化を図っています。

※この資料は北海道庁PR事務局が独自に作成したものです。本件に関する掲載、取材等のお問い合わせは下記までお問い合わせください。

本件に関するお問い合わせ先

北海道庁PR事務局(株式会社サニーサイドアップ内) 担当：朝日奈、坂間
TEL：03-6894-3210 / FAX：03-5413-3050
朝日奈：070-1230-7937 坂間：080-4794-0676
MAIL：hokkaido_pr@ssu.co.jp

Topic1. 非日常を味わえる、おすすめワーケーションスポットを一挙紹介！



I. リラックスした雰囲気で行う

「ビジネスキャンプ」ができるワーケーション

- ①【苫小牧市】オートリゾート苫小牧 アルテン
- ②【帯広市】スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド

II. 北海道を代表する土地で非日常を体験できるワーケーション

- ③【富良野市】ホテルナトゥールヴァルト富良野
- ④【長沼町】maoi salud (マオイサル) 夕空
- ⑤【士別市】羊と雲の丘
- ⑥【美幌町】WorkingSpace KITEN (キテン)
- ⑦【利尻富士町】旅番屋 (町借り上げワーケーション用施設)
- ⑧【釧路市】サンセットオフィス

III. OOを改修してワークスポットに！意外な場所でワーケーション

- ⑨【浦河町】うらかわ優駿レッジAERU
- ⑩【上ノ国町】上ノ国ワイナリー
- ⑪【利尻町】利尻町定住移住支援センター「ツギノバ」

I. リラックスした雰囲気で行う「ビジネスキャンプ」ができるワーケーション

①【苫小牧市】オートリゾート苫小牧 アルテン



▼キャンプサイトが200以上 北海道最大のオートキャンプ場

<Point>

- 日本二百名山である樽前山山麓に位置し、二つの天然湖沼をはじめ、自然林、小河川などの自然を楽しめる。
- 電源付きサイト、コテージにはWi-Fiが完備されており、一年を通じて利用可能。
- パークゴルフ・カヌー・BBQなど、キャンプ以外にアクティビティも楽しめる。

<https://arten-camp.co.jp/>

②【帯広市】スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド



▼世界的な建築家・隈研吾氏と共同開発した モバイルハウスを設置

<Point>

- 日高山脈・十勝幌尻岳の山麓に位置し、十勝の豊かな四季を体感できるキャンプフィールド。
- 高台に上がると雄大な耕作地帯の風景と、遮るもののない広大な青空が広がる。夜は満点の星空が眺望できる。
- 世界的な建築家・隈研吾氏との共同開発によるモバイルハウス「住箱-JYUBAKO-」も必見。

<https://www.snowpeak.co.jp/locations/tokachi/>

Ⅱ. 北海道を代表する土地で非日常を体験できるワーケーション

③【富良野市】 ホテルナトゥールヴァルト富良野



▼仕事の空き時間に徒歩3分のスキー場へ ワーケーションラウンジも完備

<Point>

- ホテル目の前に富良野スキー場のゲレンデが広がる。徒歩3分と好立地。
- 色々な本や雑誌を取り揃え、フリーWi-Fi・コーヒー等フリードリンク・ボードゲームを完備したワーケーションラウンジ「SHARE LOUNGE」がある。
- 屋上にある展望テラスからは富良野盆地が一望でき、十勝岳連峰は必見。夜には街の夜景、満点の星空が楽しめる。

<https://naturwald-furano.com/>

④【長沼町】 maoi salud (マオイサル) 夕空



▼丘陵にあるワイナリー、葡萄畑の上に 作られた完全予約制のプライベートテラス

<Point>

- 3800km²の石狩平野を望む絶景を堪能できる。
- 馬追の丘陵にあるワイナリー、馬追蒸溜所の葡萄畑の一番上にあるテラス。太平洋側から日本海側まで連なる山々が一望できる。
- ワインプランはマオイ丘陵にて、自家栽培の山ブドウ系の品種を中心にワイン造りを営む「馬追蒸溜所」のワインから選べる。

<https://maoisalud.com/yusora/>

⑤【士別市】 羊と雲の丘



▼全日空国際線ファーストクラス機内食の メインディッシュにもなった最上級の サフォークラムを楽しめる

<Point>

- 仕事の休憩時間には丘の上のレストラン「羊飼いの家」では、全日空国際線ファーストクラス機内食のメインディッシュやAPEC 首脳会議レセプションの食材として採用されるなど、日本を代表する最上級のラム肉を楽しめる。
- 例年4月～10月には丘に約50頭のサフォーク羊が放牧され、広い放牧地でのんびり過ごす羊たちを見ながらワークができます。

<https://hitsujitokumo.net/>

⑥【美幌町】 WorkingSpace KITEN（キテン）



▼北海道らしい田園風景を眺めながら仕事ができる非日常空間のワークスペース

<Point>

- コワーキングスペースでは、9:00~19:30までの営業時間の中でフルタイムのテレワークやワーケーションでの利用が可能。**最大10名収容可能な会議室**があり、モニターも設置。
- 3名の移住コンシェルジュが常駐しており、いつでも気軽に移住について相談できる。美幌町には移住体験住宅もあるため、連携を強化している。また、オンラインでの相談も可能。

<https://bihoro-kiten.com/>

⑦【利尻富士町】 旅番屋（町借り上げワーケーション用施設）



▼島内唯一の快適なコンドミニウムから望む日本海と利尻山の素晴らしい眺望

<Point>

- 利尻島で唯一の民間コンドミニウム（家具付きアパートメント）の一部を町がワーケーション用施設として借り上げ。
- 利尻島の玄関口・鷺泊フェリーターミナルから徒歩12分、車で3分、向かいにはコンビニ（セイコーマート）がある便利な立地。
- 窓からは望むのは、一面に広がる日本海や雄大な利尻山の素晴らしい景色。

<https://rishirifujikurashi.jp/info/1071/>

⑧【釧路市】 サンセットオフィス



▼仕事の手を止めて眺める窓の外には釧路川河口に沈む「世界三大夕日」

<Point>

- 釧路市街地の中心部に位置する商業施設『Moo（ムー）』の最上階にあるスタイリッシュなオフィス。
- **50名以上が収容可能なワークスペース**には、共用ブースと個室ブースを完備しており、**個人・企業単位**どちらでも利用可能。**釧路ワーケーションコンシェルジュによるサポートプラン**もある。
- 窓から望む**釧路川や太平洋、世界三大に数えられる美しい夕日**などの景色も魅力的。

<https://www.city.kushiro.lg.jp/sangyou/sanshien/1013448/1013449.html>

Ⅲ. OOを改修してワークスポットに！意外な場所でワーケーション

⑨【浦河町】うらかわ優駿ビレッジAERU



▼約200の牧場に3,000頭を超えるサラブレッドが駆けまわる『馬のまち』で名馬と共に過ごすワーケーション

<Point>

- 中央競馬で活躍した功労馬が暮らす厩舎内に整備した、馬を見ながら仕事ができるワークスペース。
- 周囲に3.8haの広大な放牧場、パークゴルフ場などで構成され、乗馬などの体験プログラムが充実。
- レストラン、ホテルフロントのあるウエルカムセンター3階にある大浴場。窓から見える優駿の里と日高山脈を望むことができる。

<https://aeru-urakawa.co.jp/>

⑩【上ノ国町】上ノ国ワイナリー



▼廃校をリノベーションし全国初となるワイナリーが併設された新しいスタイルのサテライトオフィス

<Point>

- 50名以上が同時に利用できるワーキングスペースのほか、宿泊可能な個室がシングルで8部屋、グループルームで2部屋用意されている。
- 廃校の体育館に、ぶどうの処理を施す機械のほか、湿調機能付きのワイントank、ワイン樽、洗浄機、架台や瓶詰機などのありとあらゆるインフラ設備を充実させ、高品質なワインを製造。

<https://kaminokuni-winery.jp/>

⑪【利尻町】利尻町定住移住支援センター「ツギノバ」



▼日本百名山の一つ「利尻山」を背景にワークができる、閉校した中学校をリノベーションした交流スペース

<Point>

- 島で使われていた漁具や、旧沓形中学校舎の素材を生かしたカフェラウンジが内设。
- 集中して仕事や作業に取り組むことができるワークスペースを完備。ミーティングルームや卓球台、ハンモックも常設し、Wi-Fi、電源、延長ケーブルなども自由に使える。
- 出身地や仕事などに関係なく、さまざまな人たちが日常的に集える場所。

<https://tsuginoba.com/>



Topic2. 北海道に移住したくなる！？道内で活躍する「地域おこし協力隊員」を紹介！

「都会暮らしのデトックス中」一目惚れした洞爺湖の町で飲食店経営

今井 亮輔さん @壮瞥町

https://hokkaido-chiikiokoshi.jp/member_introduction/product-development/327/



●東京生まれ、横浜育ちのサラリーマン、人生を見つめ直す。

東京で会社員として順風満帆なキャリアを築いていたものの、2020年頃から在宅勤務が増えたことで「これからを考える時間」が増えるように。今後を考える中で昔夢だった自分の手を動かして、まちづくりという思いを改めて決意。幼い頃から好きな「食」をテーマに、チーズ店を経営していた妻と友人夫婦と一緒に移住先を探していたところ、壮瞥町で地域おこし協力隊の募集を発見。

●空回りし、苦勞を味わって、地方のやり方を知る

2022年8月、「道の駅そうべつ情報館」の目の前に念願のワインとチーズとコーヒーの店「ヨツカド商店」をオープン。イベントや移住相談などを行っている「地域のあそびば ミナミナ」も併設。初めての土地での経験の中で、「自分の話ではなく、相手の話を聞くことが大切。」と今井さん。壮瞥町を子どもたちがいつか帰ってきたいと思える町にすることをゴールに奮闘中。

価値観を見つめ直し出会ったこの町と人のため、進化し続ける

藤谷 周平さん @八雲町

https://hokkaido-chiikiokoshi.jp/member_introduction/emigration-settlement/277/



●コロナ禍の都心暮らしを経て、見つめ直した自分の価値観

ペコレラ学舎の運営に携わる八雲町の地域おこし協力隊、藤谷周平さん。ほんの2年前まで東京都心の企業で働いていた藤谷さん。新型コロナウイルスの影響で、在宅でのリモートワークを余儀なくされていた。東京でその生活を送ることは、藤谷さんにとって耐えられないストレスだった。そんなとき頭に思い浮かんだのは、高校生まで過ごした北海道の景色。大学時代、地方創生やまちづくりを学んでいた藤谷さん。「思いっきり空気が吸い込める北海道の田舎で、身体を動かしながら、地域のために働きたい」。ぼろりとこぼれた本音の先にあったのが、地域おこし協力隊という制度だった。

●やりたい仕事と追いたい背中があった町、八雲町

八雲町を選んだのは、やりたいことと重なる今の求人を見つけたこと、この町でまちづくりに取り組んでいた赤井義大さんとの出会いがあったから。八雲町は農業だけでなく酪農も漁業も盛んで、町のもので食卓が揃うほど食が豊かな町。これからの任期で藤谷さんがやりたいことはただ一つ。「今やっていることを進化させること」。都会暮らしの違和感を丁寧に見つめた先で手にした、八雲町でのかけがえのない日々。藤谷さんがペコレラ学舎を進化させていきたいと語るのはきっと、ここで出会った人と町を大切に想うからこそのだろう。

美幌町一帯の魅力化に向けて、チャレンジをしている人々の憩いの場を創出
一戸 現貴さん @美幌町

https://note.com/bihoro_working/n/n05d1bf806e45



●前職は自衛隊。「まちづくり」や「シビックプライド（郷土愛）醸成」に興味を持ち協力隊に

「超直接的に人の役に立つ仕事を体験したい！」という思いから24歳で自衛隊に入隊。「まちづくり」や「シビックプライド（郷土愛）の醸成」に興味を持ち、リサーチ会社に転職後、現在所属する企業を知り、転職を決意。提案された勤務地の中から、地域おこし協力隊の業務委託を受ける「美幌町」を選び、地域おこし協力隊に着任。コワーキングスペース兼コミュニティカフェ兼移住相談拠点と複数の機能を持つWorkingSpace K I T E Nに勤務し、地域の人たちとイベントをやりながら意見交換もできる場所「オホーツクのキープレイス」を目指している。

●楽しく過ごしていく人が増えるお手伝いにやりがいを感じる

私は委託型の地域おこし協力隊ですが、KITEN及び周辺地域の活性化を行いながら、任期終了後も美幌町に残り続けたいと考えている。この地域一帯の魅力化ができればいいなと考えており、グランピングなどで年に一回必ず美幌町を訪れる観光交流人口をつくりつつ、将来的に二拠点生活やリタイア後にここに住もうかなという人が増えるのがいい流れだと思っている。長い目でみると人口が減っていく日本社会だが、楽しく過ごしていく人が増えるお手伝いができたら嬉しいですし、やりがいがあると思っている。

25歳、元アナウンサー。弟子屈町での挑戦

川上 椋輔さん @弟子屈町

<https://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/tisei/interview06.html>



●「発信する立場」から、「発信・実践する立場」へ

宮城県出身で、15歳のときに経験した被災をきっかけにアナウンサーを目指すようになり、北海道文化放送に入社。しかしながら発信だけでは物足りず、現場で手を動かす実践者こそ、自分の目指す姿に近いと感じ始めた。そんな折、津別町にある道東テレビの立川さんと出会い、「発信」と「実践」の二つの軸を持ちながら地域で活動する皆さんに刺激を受け、道東テレビとも関係のある弟子屈町の地域おこし協力隊に応募した。現在は「シティプロモーション活動支援員」として、YouTubeの「弟子屈町公式チャンネル」で「弟子屈町公式ニュース」などのコーナーを企画・運営。地元の人にもよく知らない弟子屈町のことを一緒に学んでいけるような「弟子屈学」というコーナーもスタートし、ゆくゆくは弟子屈高校の探究学習と「弟子屈学」による弟子屈高校生とのコラボレーションも考えている。

●弟子屈町には「事業」がたくさん！

弟子屈町には「仕事」はないかもしれないけど、「事業」ならたくさんある。地域取材を皮切りに今では宿泊施設、サウナバスの運営や地域課題解決のための新規事業開発など、たくさんの挑戦に囲まれた毎日を過ごしている。また、活動に制約が少ないので、やりたいことが明確な人には来やすく、逆に「やりたいことは明確じゃないけど、こんな環境で暮らしたい」と思っている人も大歓迎。

元々は東京で営業職。「地域振興」を胸に大好きな網走市へ移住を決断

浦 雅人さん @網走市

https://hokkaido-chiikiokoshi.jp/member_introduction/region-community/1161/



● 地元鎌倉から「網走」へ。コロナ禍の経験を経て、今しかない移住を決断

神奈川県鎌倉市出身。前職は東京でエンジニアの人材派遣の営業をしていた。中学、高校から田舎に住みたい気持ちが強く、中でも「網走市」に興味をいだいていた。働き始めて1年ぐらいで新型コロナが流行。リモートワークを余儀なくされた中で、このタイミングで移住をしないと一生後悔すると感じ、網走に行くことを決断。

● 面白さや優しさで溢れる、大好きな「網走市」で地域振興、地方創生を学ぶ

現在、まちなか網走というまちづくり会社に派遣されておりコワーキングスペース、ゲストハウスの運営をしている。ふるさと納税の業務も担当して、商店街と事業者との調整をしている。ほかに、流氷ラスクのパッケージのリニューアルと販路拡大も行っている。網走に来たときは新型コロナの真っ只中で、その際に商店街の飲食店を応援するお弁当プロジェクトに関わったことで、商店街の方との信頼関係を築くことができた。任期終了後は地域振興や地方創生をビジネスとして成り立たせられるよう、一度地元鎌倉に戻って学び、再び網走市へ帰る予定である。

漫画家で陶芸家、馬頭琴の演奏も。任期終了後の目標は自作の“土器カフェ”開店

桑原 志保美さん @網走市

https://hokkaido-chiikiokoshi.jp/member_introduction/region-community/1162/



● 旅先の網走で見た土器を再現したい！陶芸家の血が騒ぎ、迷わず移住

北海道札幌市出身。札幌市立高専で工芸を学び、卒業後は佐賀県の窯元に就職。その後、友人と陶磁器工房を立ち上げるが、ひょんなことから札幌に戻り、漫画家としてデビュー。20年弱にわたり4コマ漫画を連載。2021年の秋に友人と旅行に訪れた網走のモヨロ貝塚館で、オホーツク文化のことを知り、夢中に。網走で粘土質の土を探し、オホーツク文化の土器を再現し、その土器を使ったカフェを開きたいと一念発起。市内の就職情報を探していたところ、地域おこし協力隊を知り、移住を決断。

● 運営に携わるコワーキングスペースやゲストハウスで人を繋ぎ、網走の魅力を発信したい

前出の浦隊員と同じまちなかコワーキングスペース「ナシタ」のほか、ゲストハウスの運営も担う。自らの特技を活かしたナシタの環境づくりやイベントには、地元から感謝や感心の声もいただいた。ワーケーションや観光などで網走を訪れる方と地元住民の双方と関わることができ、また、喜んでもらえることが嬉しく、スペースを活用して双方を繋ぐことができるのでは、と可能性を感じ始めている。これからも多くの方に気軽に使ってもらえるよう、イラストや漫画、馬頭琴の演奏などこれまでの経験で培った特技を活かして、イベントなどで盛り上げていきたい。そして道外の方には、網走に行きたいと思っていただけるよう、魅力を発信していきたい。早く網走の漫画を描きたいし、土器づくりも本格的に始めたいと思っている。

Topic3.北海道だからこそできる、道内全体で取り組むワーケーションとは？

企業・個人に向けたオーダーメイドの北海道型ワーケーションプラン

●北海道型ワーケーションとは？

北海道では、「北海道型ワーケーション」＝「四季折々の豊かで美しい自然環境、安全・安心で美味しい食、独自の歴史・文化や気候風土、多彩なアクティビティなど北海道の魅力を活かし、参加者の多様なニーズにオーダーメイドで対応するワーケーション」として、道内市町村や企業・団体など幅広い関係者と連携しながら、オンリーワンの選ばれる「北海道だからできるワーケーション」を推進しています。

●北海道はワーケーションに最適な環境

「ワーケーション」と言っても、その目的やニーズは様々ですが、179もの市町村があり、豊かで美しい自然環境と様々なワークスペースとアクティビティをあわせもつ広大な北海道だからこそ、企業・職員そしてご家族など皆様の期待にお応えできるワーケーションをご案内することができます。

●企業・個人のご希望に沿った“オーダーメイドのプラン”

北海道庁では、より多くの企業や個人の皆様に、北海道ならではのワーケーションの魅力を知っていただくべく、道内市町村やコワーキング施設と連携し、新しいPR用リーフレットを作成しました。

▼ワーケーションプラン一例

福利厚生型 個人テレワーク向け 都市型&アウトドア型ワーケーションを一気に体験

帯広市 東京から十とち帯広空港まで約90分

1日目
 午前 ● とち帯広空港着
 午後 ● フィンランド式サウナ体験 (森のスパリゾート 北海道ホテル)
 夜 ● 北の原会を満喫

2日目
 午前 ● テレワーク (NUPKA ONNAY)
 午後 ● ばんえい競馬観戦 (帯広競馬場)
 夜 ● 馬車BAR体験

3日目
 午前 ● テレワーク (NUPKA LOUNGE)
 午後 ● 畑ガイド付き農業ピクニック体験
 夜 ● “住箱”宿泊体験 (スノービークトポロシキャンピングフィールド)

4日目
 午前 ● とち帯広空港発

ばんえい競馬
 農耕馬の力比べをさせたお祭りがルーツで、現在は帯広競馬場のみで開催しています。他にも帯広では様々な体験が待っています！

帯広市のワークスペース
 帯広市中心部には「HOTEL NUPKA」が運営する2つのワーク施設があり、宿泊者のみならず、ビジター利用も可能です。

チームビルディング型 企業・団体向け 空港至近の緑あふれる農村で、チームの結束力もUP!

長沼町 新千歳空港から約30分 札幌市から約50分

1日目
 午前 ● 長沼町着 (新千歳空港経由)
 午後 ● オリエンテーション&アイスブレイク

2日目
 午前 ● テレワーク (ながぬまホワイトベース)
 午後 ● ファイアリーテラス見学 (maoi salud タ空)
 夜 ● 名物ダンギスカンを堪能

3日目
 午前 ● テレワーク (ホテルフェアフィールドバイマリオット)
 午後 ● チームビルディング体験 (シチロゲイニングなど)
 夜 ● 焚き火体験 (Naganuma Blue Base)

4日目
 午前 ● チームビルディング振り返り
 午後 ● 長沼町発

チームビルディングプラン
 長沼町の豊富な魅力を体感しながら、職場の同僚など仲間同士の結束力を高めるチームビルディングプランを複数用意しています。

長沼町のワークスペース
 「ながぬまホワイトベース」では、個室やミーティングルームを完備しており、コンシェルジュとも交流することが可能です。

ラーニング型 企業・団体向け 異国情緒を感じながら、企業や大学との連携を探る

函館市 東京から十函館空港まで約80分 新函館北斗駅まで最速3時間54分

1日目
 午前 ● 函館市着
 午後 ● テレワーク (HAKOWORKS)
 夜 ● 旬の海産物や地元グルメを堪能

2日目
 午前 ● ミーティング (臨海研究所)
 午後 ● 探検ツアー (教会群、洋風建築など)
 夜 ● 老舗「五島軒」でディナー

3日目
 午前 ● 函館山登山体験
 午後 ● 大学や企業の訪問・意見交換 (公立はこだて未来大学、IT企業等)
 夜 ● 企業関係者と懇談会

4日目
 午前 ● 函館朝市散策
 午後 ● 函館市発

企業・大学との連携
 函館市では、ご要望に応じ大学や企業の視察、交流会などをアレンジし、共同研究やイノベーション創出を「待走型」で支援します。

函館市のワークスペース
 歴史的建造物「臨海研究所」や24時間利用可能な「HAKOWORKS」など、歴史的な街並みの静かな環境で仕事ができます！

社会貢献型 企業・団体向け 「学び」を軸に自然の中でSDGsについて考える

富良野市 旭川空港から富良野市まで約60分

1日目
 午前 ● 富良野市着 (旭川空港経由)
 午後 ● コミュニケーション向上ワークショップ (ふらの産産工業)

2日目
 午前 ● テレワーク (ホテル ナチュラルワルト富良野)
 午後 ● 環境教育プログラム・構想 (富良野自然塾)
 夜 ● 地域の方との交流会

3日目
 午前 ● テレワーク (EVELSA (エベルサ))
 午後 ● 地域課題を共有する意見交換会 (富良野市複合庁舎) ふうらのワインとチーズで乾杯 (ふうらのワインハウス)

4日目
 午前 ● テレワーク振り返りミーティング (エンジェルジョブプラザ)
 午後 ● 富良野市発

富良野自然塾
 自然に囲まれたフィールドで、「五感で地域を感じる」をテーマに、森林の再生活動や環境教育のプログラムを体験いただけます。

富良野市のワークスペース
 市中心部の複合施設「エンジェルジョブプラザ」内の「EVELSA (エベルサ)」では、開放的な空間で、快適にテレワークが可能です。

●企業と従業員間の“悩み”を3種のワーケーションプランで解決！

「従業員の会社に対する愛着が薄れてしまわないか心配だ・・・」、「コミュニケーション不足でチーム連携のスピード感が落ちたな・・・」など企業と従業員間に悩みが多いところですが、そんな悩みをワーケーションプランで解決します。

① **チームビルディング・人材育成**
 自然環境やチームでのアクティビティの中で

② **地域課題解決**
 自社事業による地域の社会課題の解決支援

③ **異業種交流**
 道内企業との新たな事業の取組み

他にもあります 人材育成、研修型ワーケーション

美瑛市 旧産炭地の歴史とホワイトデータセンター構想に学ぶ

研修内容 1泊2日
 前編として美瑛市の歴史や観光地を体験した「ホワイトデータセンター」の視察を行い、そのほか4日1泊に当たることで「イノベーション人材育成」のきっかけを創出します。

Day 1
 午前 ● 移動
 午後 ● 郷土史料館ガイドツアー
 旭鉱モリリア森林公園見学
 空母尾崎美術館
 アルタピアツア美瑛見学

Day 2
 午前 ● ホワイトデータセンター見学
 研究員の講話
 ワークショップ
 ディスカッション
 午後 ● 移動

炭鉱跡地などの視察
 かつて石炭の街として栄えた美瑛市の歴史について学びます。郷土史料館や保存する産業遺産見学を通じ、美瑛の今に触れます。

ホワイトデータセンター
 炭鉱跡地を再生し、人口減少や高齢化が進む美瑛で誕生した、雪冷熱を活用した地域環境型データセンターについて研究開発人から講話。自社ビジネスへの活用等を考えます。

大手企業とタッグを組み、北海道型ワーケーションを強化

●北海道型ワーケーションの取り組みを強化するために「ワーケーションパートナーシップ協定」を締結

①富士通株式会社、富士通Japan株式会社

富士通株式会社及び富士通Japan株式会社は、2021年(令和3年)11月22日(月)に北海道と「ワーケーションパートナーシップ協定」を締結。北海道庁はワーケーションの受入に関して、全国で初となる本パートナーシップ協定に基づき、企業との連携によるワーケーションの先進地として、受入の実績やノウハウを蓄積し、「北海道型ワーケーション」のブランド化を図ります。



②三菱地所株式会社、一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会

2023年(令和5年)3月16日(木)、北海道と三菱地所株式会社、一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会(通称：エコツェリア協会)は、北海道におけるワーケーション推進を通じ、地域課題の解決や地方創生の推進を図ることを目的として、「ワーケーションパートナーシップ協定」を締結。

この協定を通じ、三菱地所、エコツェリア協会によるワーケーションの実施やネットワークを活用した普及・展開、都内の交流拠点を活用した魅力の発信など、北海道型ワーケーションの取組を強化していきます。



富士通(株)、富士通Japan(株)との協定締結



三菱地所(株)、(一社)大丸有環境共生型まちづくり推進協会との協定締結

このほかにも、包括連携協定の中ではワーケーション推進に関する項目を締結している企業が5社あり、連携しながら北海道型ワーケーションを推進しています。

※この資料は北海道庁PR事務局が独自に作成したものです。本件に関する掲載、取材等のお問い合わせは下記までお問い合わせください。

本件に関するお問い合わせ先

北海道庁PR事務局(株式会社サニーサイドアップ内) 担当：朝日奈、坂間
TEL：03-6894-3210 / FAX：03-5413-3050
朝日奈：070-1230-7937 坂間：080-4794-0676
MAIL：hokkaido_pr@ssu.co.jp